

北海道支部

樹々の緑とラベンダーが美しく札幌を彩る7月6日、「札幌プリンスホテル」にて第42回北海道支部総会を開催いたしました。

青山学院大学コミュニケーション人間科学部准教授輪島達郎先生、同後藤千織先生、山川仁美同窓会副会長、中村真規校友会札幌支部長を来賓にお迎えし、会員20名と共に総勢24名の笑顔溢れる和やかな集いとなりました。

輪島先生の司式で捧げた礼拝では、聖書の一節の「私の家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる」からアイヌの方々を思い、また本年1月に天国に召された当支部委員の和田美知子さん（平5E）のご冥福を祈りました。続く議事では役員交代の報告がありました。コロナの大変な時期も含め6年に渡り、支部長として新しいことにも挑戦しながらエネルギーに支部運営をしてこられた吉田美路子さん（平4J）が退任され、加藤和子新支部長（45E）に引き継がれました。



第二部は後藤先生に「戦後日本の高等教育とジェンダー 青短卒業生聞き取り調査のまとめから」をテーマにご講演いただきました。特に、女子教育で中心的な役割を果たした短



大の教育を共学四年制大学が活かすためにスクーナーメーカー記念ジェンダー研究センターが行っている卒業生インタビューの研究活動等のお話は、閉学しても母校のスピリットは次世代に引き継がれていくのだと感慨深く、それぞれが懐かしいキャンパスに思いを馳せたひとときでした。

また、2月に行った学びの会「琉球とアイヌ・多数者に食い物にされる少数者の生活と文化」と題した輪島先生によるオンラインセミナーでは道内のみならず全国の方々にご参加いただきました。「表面に見えていることの奥に潜む問題について改めて考えることができ有意義な時間だった」など多数の感想をいただき、距離があっても同じ時間に同窓生が学ぶことの喜びも得ました。今年度は10月26日（土）に秋の行事「和菓子作り体験」、11月30日（土）に学びの会「初めての手話」を開催いたします。初参加の方もお子さまやお孫さま連れの方も大歓迎！皆さまのご参加をお待ちしております。文化の秋を楽しみましょう。

62C 原口 尚子（小林）

東北支部

6月22日、福島県郡山市において、第33回東北支部総会を開きました。

青山学院大学コミュニケーション人間科学部教授趙慶姫先生、同准教授西山利佳先生、依田静江同窓会会長をお迎えして、東北6県からは36名の会員が集いました。

今年の議事は議案が1件増えて、提案する側も緊張気味で臨みましたが、依田会長には定額活動費について丁寧に説明いただき、会則の追記につきましても、会員の皆さまのご理解を頂戴して、無事承認をいただきました。

講演の部では、西山先生から、「子どもの本で平和を考える」という演題



でお話しいただきました。情報化社会のおかげで、今ウクライナやイスラエルで起きていることの映像が毎日私たちの手元に届く昨今、心が痛み、気持ち沈みます。日本の児童文学も明治、

大正、昭和と変遷をたどり、子どもに向けたメッセージに対する危機感、反省、再出発があったとのこと。では、「戦争でなければ平和か？」と大学の授業でも学生に問うているそうです。そんな問いに少しでも答えてくれる本の読書案内もいただきました。子どもの本はシンブルに大事なことをつたえてくれるという西山先生のことばに、紹介いただいた本をすぐにでも手にとって読みたいくなるような魅力ある講演でした。

第3部懇親会ではバ イオリニスト篠山朝子氏による素敵な演奏を聞くことができました。クライスラーの「中国の太鼓」から始まり、モンティの「チャルダッシュ」、そしてアンコールにまで応えていただき、全6曲の演奏をこなしてくださり、とても贅沢なひと時となりました。伴奏のピアニスト山本優衣さんは、総会第1部で私たちの讚美歌の伴奏も引き受けてくださり、心にしっとりとしみいるピアノの音が印象的でした。



福島県部会会長の宗像恭子さん（50E）を始め、福島県部会の方々のユーモアにあふれた温かいお人柄が伝わる会となりました。

56E 中村いずみ（佐藤）